

目標志向性が防衛的悲観主義に与える影響について

荒木友希子
(金沢大学文学部)

Norem & Cantor (1986) は学業達成場面において以下のような特徴を持つ学生の存在を指摘し、防衛的悲観主義(Defensive Pessimism)の概念を提唱した。①過去の学業成績が優れているにもかかわらず、学業達成場面において常に非現実的に低い期待しか持たない。②失敗や最悪の事態を想定してあれこれ考え込み、不安が非常に高い。③その一方で優れた成績を維持している。

この概念は、失敗によって自尊心が傷つくのを防衛するためのセルフハンディキャップ的な認知的方略として説明される(Norem,2001)。自己高揚動機に基づく方略のひとつであるセルフハンディキャップ方略を用いる場合、失敗を回避するために意図的に努力を差し控える。しかし、防衛的悲観主義方略の場合は努力を放棄するのではなく、むしろ高い不安を動因として努力を動機づけている。また、高い不安によって成績が妨害されるテスト不安と異なり、実際に望ましい結果を得ている。

元来、悲観的な思考や態度は精神的健康に対して否定的な影響を与えるものとして認識されている。たとえば、学習性無力感に関する研究では、楽観主義が抑うつに陥る予防策として有効であり、精神的健康を促進させるという見解が得られている(Seligman, 1991)。その一方で、Noremはこの防衛的悲観主義を肯定的なものとして捉えている点が大きな特徴である。Norem(2001)は、精神的健康に対して否定的な影響を与える悲観主義を真の悲観主義と呼び、防衛的悲観主義と区別した。防衛的悲観主義は、期待の低さや不安の高さに関しては真の悲観主義と共通しているものの、(a)過去の成功経験を否定しない、(b)成功場面での満足感が高い、(c)成功の原因を自分自身に帰属する、(d)否定的フィードバックを受け入れて自分の行動を修正することができる、といった特徴から、真の悲観主義とは明らかに異なっているといえる。

防衛的悲観主義に関して日本人を対象としたこれまでの研究では概念や測定上の問題が多く残っていることから、荒木(2005)は、Norem(2001)に基づいて防衛的悲観主義の構成概念を整理し、防衛的悲観主義尺度(JDPI)を作成した。JDPIは「悲観」、「過去の成績」、

「成功熟考」および「努力」の4つの下位尺度から構成されており、高い妥当性および信頼性が確認されている。

また近年、防衛的悲観主義に関わる要因について検討が行われている。たとえば Elliot & Church(2003)は達成目標のうちパフォーマンス接近および回避目標との関連を見いだしている。防衛的悲観主義を査定する尺度に関する問題があるものの、防衛的悲観主義のメカニズムを明らかにする際に手がかりとなる知見といえよう。

そこで本研究では、防衛的悲観主義のさまざまな特徴を多面的に捉える荒木(2005)の JDPI を用いて、学業達成場面における目標志向性が防衛的悲観主義に与える影響について検討をおこなうことを目的とした。目標志向性に関しては、Elliot & Church(2003)に基づき接近と回避の次元を区別して、パフォーマンス接近、パフォーマンス回避、マスタリー接近、マスタリー回避志向、の4つの目標を設定した。

【 方法 】

◆ 調査参加者および手続き

日本人大学生616(男性277, 女性333, 不明6)名、平均年齢 20.12 歳(SD=1.54)。ある程度高いレベルの国立大学法人(平成18年度に新規で採択された科学研究費補助金の件数は全国16位)に在籍している大学生を調査対象者とした。過去にある程度良い成績をおさめた経験がある者と推測される。無記名方式による集団実施をおこなった。

◆ 尺度

① 目標志向性尺度(Elliot & McGregor, 2001)

パフォーマンス接近、パフォーマンス回避、マスタリー接近、マスタリー回避志向の4因子から構成されている。12項目、7段階評定。本研究では「普段あなたは大学の授業でどのように考えながら勉強しているかお尋ねします。」と教示し、各項目についてこの教示文に対応する表現に翻訳して使用した。

② JDPI(荒木, 2005)

学業達成場面における防衛的悲観主義の程度を査定。悲観、過去の成績、成功熟考、努力の4因子から構成されている。24項目、6段階評定。

【 結果と考察 】

各下位尺度における項目数, 平均値, 標準偏差, α 係数, および, 各尺度間の相関係数を Table1 に示す。また, 確認的因子分析の結果, 両尺度ともに4因子モデルの適合度は良好であった(目標志向性尺度: GFI=.966, AGFI=.934, RMSEA=.076; JDPI: GFI=.854, AGFI=.823, RMSEA=.077)。

学業達成場面における目標志向性が防衛的悲観主義に影響を与えるという因果モデルを構造方程式モデルの推定によって検討した。潜在変数の構成には, モデルを単純化するため, 下位尺度ごとに算出した下位尺度得点を観測変数として採用した。潜在外生変数となる目標志向性尺度の各因子に関して, 相関が認められなかったパフォーマンス回避志向とマスタリー接近志向との間を除き, 共分散を仮定した。また, JDPIの下位尺度間に相関が認められたことを考慮して, 相関が認められなかった悲観と肯定的熟考との間を除き, 潜在内生変数の誤差間にも共分散を仮定した。最終的なモデルの適合度は $\chi^2(53) = 162.46$, GFI=.963, AGFI=.937, RMSEA=.058 であり, 説明率に問題はないと判断した。Figure1 に標準化された解を示した(潜在変数間のパスのみを示す)。全ての係数は 1%水準で統計的に有意であった。

これらの結果から, 他者の評価を重要視し, 他者よりも良い評価を得たいと考えるパフォーマンス接近志向が防衛的悲観主義に最も影響を与えていることが明らかとなった。また, 悲観因子に対して最も影響を与えたのは, 完全に理解できないことや以前の自分の遂行レベルを落とすことを避けようとするマスタリー回避志向であった。課題遂行前の不安が高い原因のひとつとして, 他者よりも評価が劣ったり完璧に課題をこなせなかったりすることを恐れる傾向があることが考えられるだろう。このような失敗への強い恐怖や成功への強い欲求が防衛的悲観主義と関係があることが推測される。今後はこれらの要因に関係するコンピテンスや

セルフエスティームといった自己の概念との関係を検討する必要がある。また, マスタリー接近志向とマスタリー回避志向に関して, 両者間には強い正の相関が認められ, 悲観因子に対して正・負の影響をそれぞれ与えていた。本研究では, パフォーマンス接近志向とマスタリー回避志向は異なった機能を持っているというよりも, 同次元で対極となる機能であったといえる。

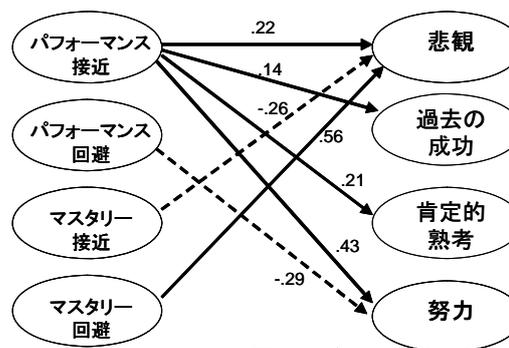


Figure1. 因果モデル

【 参考文献 】

- 荒木友希子 (2005). 防衛的悲観主義尺度 (JDPI) の作成と信頼性, 妥当性の検討について, 日本パーソナリティ心理学会第 14 回大会発表論文集, 189-190.
- Elliot, A.J. & Church, M.A. (2003). A motivational analysis defensive pessimism and self-handicapping. *Journal of Personality*, **71**, 369-396.
- Norem, J.K. (2001). Defensive pessimism, optimism, and pessimism. In E.C.Chang(Ed.), *Optimism and Pessimism: Implications for theory, research, and practice*. Washington, D.C.: American Psychological Association. pp.77-100.
- Norem, J.K. & Cantor, E.C. (1986). Anticipatory and post hoc cushioning strategies: Optimism and defensive pessimism in "risky" situations. *Cognitive Research and Therapy*, **10**, 347-362.
- Seligman, M.E.P. (1991). *Learned Optimism*. New York: Knopf.

Table 1. 各下位尺度の基礎統計量

下位尺度	項目数	平均値	標準偏差	α 係数	相関係数									
					1	2	3	4	5	6	7	8		
1 悲観	12	39.80	11.41	.89	—									
2 過去の成績	4	14.64	4.20	.81	-0.12 **	—								
3 肯定的熟考	5	17.66	5.25	.77	-0.04	0.19 **	—							
4 努力	3	11.43	3.22	.71	0.19 **	0.23 **	0.20 **	—						
5 P接近	2	8.06	2.94	.77	0.23 **	0.11 **	0.17 **	0.23 **	—					
6 P回避	2	6.58	3.01	.81	0.23 **	0.04	0.07	-0.07	0.31 **	—				
7 M接近	2	7.95	2.86	.77	0.19 **	0.01	0.01	0.16 **	0.32 **	-0.10	—			
8 M回避	3	12.30	4.78	.86	0.41 **	-0.05	-0.02	0.06	0.27 **	0.12 **	0.56 **	—		

** $p < .01$